

ES-3 V2.0 リリースノート

V2.0 新機能

オーディオに関して

1. ステレオ / モノラル

ロギング / デジタイズの際、クリップをステレオにするかモノラルにするかを選択出来るようになりました。ロギング / デジタイズ後も、オブジェクトの [プロパティ] ダイアログでステレオかモノラルかを変更する事が出来ます。また、ステレオとモノラルの設定はプロジェクトの一覧表示部にそれぞれ - S、 - M と表示されます (詳細表示の場合)。

パンニング操作をした場合、ステレオクリップでは左右のチャンネルのバランス調整となり、モノラルクリップではパンニングとなります。

- ・ステレオ: タイムラインに挿入した場合、オーディオでは 2ch 単位で貼り付けられます。バランスはセンターに設定されるので、通常のステレオ編集に適しています。この場合各トラックは A1 と A2、または A3 と A4 の音声を含みます。また、このクリップをディスバンドすることも可能です。この場合、バランスを変えない限り、各トラックは A1、A2、A3、A4 のどれか一つの音声を含みます。
- ・モノラル: 今までのバージョンと同じ扱いになります。デフォルトではパンニングがセンターにあるので、A1/A2、A3/A4 の音声はミックスされています。

2. [オーディオエディター] に以下の機能が新規追加になりました

- ・オーディオフィーダーのロックを、最大 8 通りのグループに分けることが出来ます。フェーダーでグループ分けするには、[フェーダーグループの設定] ボタン (錠の形のアイコン) をクリックして表示されたカラーフィールドから色を選択します。同じカラーコードのフェーダーは、一緒に連動して動きます。
- ・タイムラインカーソルの現在位置のパンニング / バランスの値やボリュームの値を、直接キーボードから数値入力出来ます。
- ・ボリュームライン / パンニングラインの表示の切り替えなしに、各ラバーバンドの設定が出来ます。
- ・「キーフレームを元に戻す」「キーフレームのやり直し」機能

タイムライン動作に関して

[カーソルの前後を再生]

[カーソルの前後を再生] ボタンで、タイムラインカーソルの現在位置の前後 4 秒を、繰り返し再生出来ます。マークイン/マークアウトを設定しなくても、カーソル付近の繰り返し再生が可能になります。

[カーソル以降を選択]

[カーソル以降を選択] ボタンで、編集可能なトラック上のタイムラインカーソル以降のクリップをすべて選択出来ます。

タイムラインのズーム

キーボードの矢印キーでも、タイムラインの拡大/縮小が出来ます。

： 縮小 ： 拡大

プロジェクトに関して

テンプレートの削除

プロジェクトのテンプレートを削除することが出来ます。

テンプレートの削除機能は、ES-3 [スタート] メニューから呼出せます。

アスペクト比の保存

グラフィックの大きさを一致させる時に、アスペクト比を維持出来ます。

設定は、画像オブジェクトの [プロパティ] ダイアログで行います。

[シーケンスの出力] ダイアログにオプション追加

[シーケンスの出力] ダイアログを使用してシーケンスを AVI ムービーとして出力する際、[オプション] 機能を使って [ビデオの圧縮] ダイアログを開き、圧縮の方法や圧縮品質の設定を行うことが出来ます。

Quicktime でのエクスポートの拡充

Quicktime でのファイル出力の際、圧縮プログラム、品質、動作の設定をする事が出来るようになりました。

Quicktime 3.0 以上をインストールする必要があります。

リファレンストーンの追加

リファレンストーンに - 9dB が追加になり、従来の 0dB と合わせて全部で 3 種類になりました。

ES-3 全般

[シーケンスからラックを作成] ダイアログで追加設定

[シーケンス]メニューの [シーケンスからラックを作成] 機能を使用して新規にラックを作成する際、クリップのハンドル長を設定したり、入力された全メディアファイルやスピード制御されたクリップを新規ラックに含めたりすることが出来ます。

ツールの簡易実行

ツールバーからツールを一回だけ実行する事が出来るようになりました。

ツールを実行するには、ツールバーを右クリックしてポップアップメニューを表示し、必要なツールをメニューから選択します。この機能により、[カスタマイズ] ツールボックスを開いてツールボタンをツールバーに配置しなくても、ツールを実行する事が可能です。

ツールバーのギャップ表示

[カスタマイズ] ツールボックスを開いてツールバーをカスタマイズする際、ツールバーにギャップが表示され、カスタマイズがやり易くなりました。

V2.0 新機能に関して、詳しくはオンラインヘルプ、または取扱説明書 ESBK-3091 をご覧下さい。

操作上の注意事項

1. ES-3 を立ち上げる時は、以下の点に注意して下さい。
 - ES-3 メインユニットの電源を入れて 30 秒位経ってから、PC の電源を入れて下さい。
 - Windows が完全に立ち上がって（ハードディスクへのアクセスが止んで他のアプリケーションがすぐ起動できる状態）から、ES-3 を起動して下さい。
 - ES-3 を終了して再度起動する場合は、ES-3 が閉じてから 30 秒位経ってから、再起動して下さい。
2. ロギングツール内のビデオ表示に他のウィンドーやメニューを重ねてマークすると、インデックスピクチャーに、重なった部分が取り込まれます。
ビデオ表示には何も重ねないでマークして下さい。
3. 非圧縮モードでデジタイズするとき、ハードディスクへの転送レートを確保するため、記録中のロギングツール内のビデオ表示は更新されません。

4. 16:9 モードで編集する場合は、使用する全てのクリップやタイトルが 16:9 モードでデジタイズ/作成されていることが必要です。4:3 モードでデジタイズ/作成したクリップやタイトルをレンダリングすると、サイズが変わる場合があります。
5. 輝度 (Y) の入出力レベルは、100IRE に制限されています。
6. サンプリング周波数 8,12,16,24kHz のウェーブファイル (* .wav) や AIFF 形式のオーディオファイルのインポートには対応していません。
7. 外部で作成したグラフィックファイルをインポートするときは、ピクセルの違いに注意して下さい。
一般のグラフィックファイルは正方画素に基づいていますので、ビデオ上では縦横比が変化します。この場合、画像オブジェクトの [プロパティ] ダイアログのピクセルフォーマットで、スクエアを選択して下さい。
なお ES-3 では、あらかじめ NTSC,PAL のサイズを想定してファイルが作成されません。
8. NTSC でタイムコードのフレームモード (DF/NDF) を変更した場合、新規に作成されるシーケンスから反映されます。また、システムとシーケンスのフレームモードが異なる場合は、そのシーケンスの再生は出来ませんが変更は出来ません。
もし既存のシーケンスのフレームモードを変更したい場合は、希望するフレームモードの新規シーケンスを作成して、元のシーケンスをタイムラインに送出して下さい。
9. クリップをドラッグしたまま、ビュースイッチャーを切り替えることが出来ます。
クリップをドラッグして目玉のアイコンの上に置いたままにすると、表示モードの一覧が出るので希望のモードの上にマウスを移動して下さい。
10. クリップのコピー / ペーストは、同一シーケンス内の場合と異なるシーケンス間の場合とで動作が異なります。
同一シーケンス内の場合は、クリップがリンクされておりリンクされたクリップを自動選択していれば、プロテクトされているトラックからコピー出来ます。ペーストされるトラックは、元のクリップと同じプロテクトされていないトラックです。
異なるシーケンス間の場合は、プロテクトされたトラックからはコピー出来ません。ペーストされるトラックは上から順番にアクティブなトラックが使用され、トラックの数が足りない分はペーストされません。

11. テストパターンとして内蔵しているカラーバー等のクリップ（*.bsi）と、タイトル等のアルファチャンネル付きのクリップを連続して再生する事は出来ません。クリップとクリップの間に隙間をあけるか、別のクリップを置いて下さい。
12. トリムエディターを開いているときは、エフェクトのレンダリングは行われません。トリムで影響を受けるエフェクトのレンダリングは、トリムエディターを閉じてから開始されます。またプレビューの際には、クリップ FX は反映されません。
13. エフェクトエディターでクリップの最後に設定したキーフレームは、第 2 フィールドに対する設定になります。またタイムラインの静止状態の表示は第 1 フィールド（NTSC:Odd,PAL:Even）第 2 フィールド（NTSC:Even,PAL:Odd）フレームを選択できます。
よって、レンダリングをフィールドモードで行った場合、タイムラインをスクラブして最後のキーフレームと同じ状態の画像を見るためには、静止状態の表示を第 2 フィールドか、フレームに切り替えて下さい。
14. イリーガルカラーを持つ画像をレンダリングすると、色が変化する場合があります。75%カラーバーの色範囲を超えないようにして下さい。
15. バックアップなどの理由でメディアファイルを削除した場合、スピード制御されたクリップを再生するためには、元のクリップをデジタイズ後に再作成する必要があります。[スピード制御]機能を用い、ファイル名からスピード情報を入力して下さい。またシーケンスからトラックを作成するときは、[読み込んだファイルを含める]に設定して下さい。
16. クリップ/ソースビューアーでのオーディオスクラブは CH-1/2 固定です。グループまたはステレオでタイムライントラックに貼られたクリップは、各トラックに対して 1 チャンネルのみ可能です。
17. コンテナに対しては、メインシーケンスを表示していてもコンテナを表示していても、オーディオスクラブは出来ません。
18. オーディオキーフレームの[元に戻す][やり直し]は、選択されているクリップに対してのみ有効です。
19. オーディオミックスを記録したくないトラックは、オーディオエディターで[オーディオの記録]ボタンをオフにするか、タイムラインでトラックをプロテクトして下さい。トラックを非アクティブにしても、記録は実行されます。

20. オーディオエフェクトをクリップを再生しながら調整する場合は、先にクリップを再生、又は繰り返し再生してからエフェクトエディターを開いて下さい。
またマキシマイザーを複数チャンネルを含むクリップにかけた場合は、リアルタイムで調整する事は出来ません。
21. ES-3 CG でより遅いスピードのロール/クロールタイトルを使用したい場合は、[メディアファイル入力] ダイアログで静止画として取り込み、デュレーションで長さを、モーションエディターで動きを設定して下さい。
22. ES-3 CG でページを出力する際に、そのプロジェクトが存在するフォルダーには出力できません。別のフォルダーに出力して下さい。
23. ES-3 CG のクロールの最大長は、フォーマット上 16,333 ピクセルです（約 22 ページ）。これ以上長いサイズのクロールタイトルは、使用できません。また複数のエディットにまたがるクロールファイルの長さは、画面の 1/3 以内にして下さい。
24. ES-3 CG でオブジェクトをコピー/ペーストした場合、コピー元と同じ位置か、カーソルと異なる位置にペーストされます。ペーストされたものはボックスカーソルで選択されているので、希望位置にドラッグして下さい。また同時に入力した文字列の一部をコピー/ペーストした場合は、文字列の先頭にペーストされます。
25. テープにストライピング記録をする際のプリロール時間は次の通りです。この間は、イン点までブラックが記録されます。

RS-422：指定したタイムコードの 15 秒前
i.LINK：設定されたプリロール時間
26. テープに記録中は、モニターボリュームの調整は出来ません。
27. Quicktime の入出力をするためには、システムに Quicktime をインストールする必要があります。このソフトは ES-3 には含まれていません。なお入力ビデオのみ可能です。
28. EDL は、ビデオのマルチレイレイヤーには対応していません。マルチレイヤーのシーケンスを出力したい場合は、トラックのプレイバックをオン/オフしてトラックを選択し、分割して出力して下さい。
29. EDL を出力する際、シーケンスの 23:59:59:11 以降は正しく変換されません。出力するシーケンス中に、23:59:59:11 を含まないようにして下さい。

30. ヘルプでオペレーションマニュアルを見るためには、Acrobat Reader が必要です。
インストールされていない場合は、Windows のスタートメニューのプログラム > Edit Station ES-3 > Install から、インストールを実行して下さい。
なお、最初にマニュアルを開く場合には少し時間がかかります。
31. ESBZ-3020,ESBK-3031,ESBK-3032 をインストールした場合、それぞれのソフトウェアプロテクションキーを装着しないと、各機能は有効になりません。

制限事項

1. リアルタイムのスライドで、トランジション中の動作がスムーズでなかったり画像の周辺に黒いエッジが見える場合があります。このようなときはモーションエディター（トランジション）で効果を作成して下さい。
2. ゲンロックをオンにすると出力信号のサブキャリアが大きなジッターを持つようになります。ゲンロックはオフに設定して下さい。
3. メインユニットの電源を入れたとき、まれに Y 出力の同期がロックしない場合があります。この場合は、電源を入れ直して下さい。
4. DSR-40 を RS-422 でコントロールする際は、PLAYER ポートを使用して下さい。RECORDER ポートに接続した場合は認識されません。またメインユニットの前面 LED が点滅して、オペレーション出来ないことがあります。
5. 2 台の i.LINK VTR を接続して一方を再生中、他方の電源をオンオフしたりケーブルを抜き差しすると、再生中の画像や音声にノイズが発生する場合があります。
6. AES/EBU 出力を DSR-80、85 等に入力した場合、VTR の AES/EBU 表示が点滅しますが、記録には差し支えありません。
7. 同じ VTR に対して、入力:SDI、出力:SDTI (QSDI)、またはその逆の設定をしてテープに記録を実行した場合、記録開始時に [デバイスの準備が出来ていません] (Device not ready) の表示が出て記録できない場合があります。この場合は、入出力に同じフォーマットを設定して下さい。
8. もしレンダリングがスタートしない場合は、トラックのプレイバックをオン / オフして見て下さい。

9. ES-3CG のメニューの一部が、まれに表示されない場合があります。この場合 ES-3 CG を開き直すか、ES-3 を立ち上げなおして下さい。
10. デュアルモニターで使用している場合、オーディオツールやプロパティを右側のモニターに移動した後にシングルモニターに変更するとこれらが表示されなくなります。変更前に、左側のモニターに移動しておいて下さい。